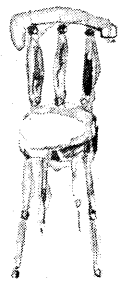


私の所感

大石 武一



ご紹介をいただきました大石でございます。幼児教育に直接関係のあることはお話できませんが、私の思っていることを少しお話ししたいと思います。

皆さんご存知のように、私は尾瀬の自然を守るために努力をいたしまして、仕事をやめましてから先日、家内と孫を連れまして尾瀬に行つてまいりました。尾瀬は、学生時代に行きたかったのですが、私、学生時代はちよつと野球をやりますぎまして体をこわしました。そんなことで行かれなかつたのですが、在職中に一度まいりまして、それから先日、まいつたわけでございます。

尾瀬の自然を守るために大変努力をいたしました高野さんという人が、非常に尾瀬を愛しまして、親の代から尾瀬に山小屋をもっていた人ですが、山を歩いていなくなりました。その人の一周忌ということで私もおまいりにいったわけです。

ところが私は大変感いたしました。尾瀬は、あれだけ有名で、多勢の人が訪ねる所でありますのに、ごみ一つもありません。努力をすれば、このようになるものかと思つたことでございます。

公害の原因として、大企業のせいだとか、経済成長偏重のせいだとか、いろいろの事がいわれています。しかし私は、やる気になれば決して防げないものではないと思ひます。環境庁でも、人員を増やしましてこの問題にとりくんでおります。そしてたしかに効果もあがつております。公害の原因をなした者を法律で罰するとか、いろいろ考えられますが、結局は公害のものを作りますのも、防ぐのも人間であります。一人一人の意識の改革という事が行なわれれば、これは決して不可能な事ではないと、私は深く確信して今後とも行動していきたいと思つてお

ります。

私は先日、銀座の歩行者天国という所へ参りました。ふだん車の行ききの激しい銀座通りを通行止めにして、いろいろな店が出て、大きな傘のかけで人が休んでいたりと、なかなかよいものでした。ところが、紙くずが非常に多いのです。すぐに責任者を呼んで聞きましたところ、あとで私たちが掃除をするから、というのです。私は、そんな事ではいけない、自分で出したごみは、自分で始末するのがあたり前だ、すぐに紙くず入れを備えるように、と申しましたが、その後どうなりましたかわかりませんが、ともかく、誰かが始末するだろう、このくらいの紙くず、などという事がつもりもってこういう事になるのです。ごみ一つない尾瀬の事を考えまして、やはり一人一人の心構えで、きれいな所もよごれてしまうという事を、今さらのように思いました。

次に、私が戦後外国へ参りまして、大変印象に残った事がございます。

それは、プリーズとサンキュー、それからユー　アー　ウエ　ルカム、この三つの言葉でございます。いっどこでも、大変自

然に、小さな子どもの口からもこの言葉が聞かれた事でございます。たとえ親しい間柄でも、また反対に知らない同志でも、この三つの言葉をかわす事によって、人間関係が非常になごやかになると思うのです。これは日本でもこうありたいと思つた事でございます。

しかしこういう事は幼い時から、自然に身につけてこそいいのであります。どうぞ幼稚園で小さいお子さんを教育なさいませ皆様方に、この事をお願いしたいと思ひます。

たとえば、私の家の近くに小学校がありまして、毎朝、朝礼のような事をしております。このような時に、〃ごみはすてません〃とかこの三つの言葉を、シュプレヒコールのように、子どもたちにいわせたらどうでしょう。このごろの子どもですくらは、シュプレヒコールなどという事は得意だと思ひますが……。最後に一つ付け加えたい事がございます。戦後、どうも私などが見ておりました、親が子どもに遠慮をしておる、あまり時代が変化したために両親の自信がなくなつたせいか、おさえるべき所をおさえていないような気がいたします。これではいけません。両親の気持ちがぐらつけば子どもも何となく不安を感じるでしょう。将来親となられる皆さんも多いと思ひますので、この事をお願いして、この話を終わりたいと思ひます。(要約)